マイナー学修の入門科目でのスチューデント・アシスタントの活用

Using Student Assistants in Introductory Minor Studies

竹岡 篤永，神田 麻衣子
Atsue TAKEOKA, Maiko KANDA
新潟大学 教育・学生支援機構
The Institute of Education and Student Affairs, Niigata University
Email: atakeoka@kumadai.jp

あらまし：グループ学習の活性化を目指し、スチューデント・アシスタント（SA）を授業ファシリテーターとして活用した。また、その活動を通じて、SA には後続科目を牽引する存在としての成長も期待した。受講者のアンケート結果からグループ学習がねらい通りに活性化したことが示唆された。また SA 自身についても、学修への取り組みが積極的になったことが示され、後続科目での牽引役が期待できる。
キーワード：マイナー学修、分野横断、インストラクショナルデザイン、スチューデント・アシスタント

1. はじめに

特定分野に偏らず、複数の視点を課題発見・解決に適用できる人材育成をめざし、新潟大学では 2021 年度に、副専攻（マイナー）制度を刷新し、社会課題や興味・関心に基づいて自らが選択した履修科目を、マイナー学修として定義できる仕組み（学修創生型マイナー）を創設した。この仕組みを担保するため、２つの科目を設置し、加えて、マイナー学修全体を支援するために専任のアカデミック・アドバイザーを配置した。

本稿は、学修創生型マイナーの入門科目『分野横断デザイン』に導入したスチューデント・アシスタント（以下、SA）の活動成果と、今後の展望について報告する。

2. 学修創生型マイナーの概要

2.1 学修創生型マイナーの概要

学修創生型マイナーは、分野・テーマ毎に決められた科目リストの中から科目を選び、所定単位を修得すればマイナーが認証されるというものではなく、自らがテーマを決めて科目リストを作成し、所定単位を修得したのちに、それらの学びに意味づけすることによりマイナーとして認証するものである。自らが学びを作り上げるという「創生」に特徴がある。その支援のために、『分野横断デザイン』と『分野横断リフレクション』という必修科目を設けた。前者でマイナー履修を計画し、それに基づいてマイナー学修を進め、後者でメジャーや社会課題と絡めてマイナー学修に意味を与える。

2.2 『分野横断デザイン』の概要

『分野横断デザイン』は、マイナー学修に関心を持つ１、２年生を対象とした１単位の科目である。教員７人が担当し、半年間で８回実施する。自らの社会課題や興味・関心を、マイナー学修の目的・ねらいとして整理し、それをもとに履修計画を立てることがゴールである。本科目は全学部（10 学部）の学生に開かれており、異なるものの見方に触れ、考えを深めていくため、授業では、学生同士のディスカッションを中心に据えている。

2.3 SA 雇用の目的

2021 年度１学期の授業では、グループディスカッションが期待通りに活発にならないという課題が見られた。そこで、ディスカッション活性化のために、本科目を修了した学生 8 人を SA（スチューデント・アシスタント）として雇用した。年齢が近く身近な存在であることから話しやすい環境をつくり易いと考えたためである。事前プログラム(1)でファシリテーションスキルを身に付けてもらい、２学期授業でファシリテーターを務めてもらった。同じ授業を修了しており、また修了直後の雇用であり、事前トレーニングが少なくて済むことも見込まれた。

SA 雇用には別の目的がある。前述したように、学修創生型マイナーでは２つの科目を必修としている。『分野横断デザイン』の修了生は後続科目『分野横断リフレクション』を履修する。そのため、SA 業務を通じてファシリテーションスキルを上げ、さらに、マイナー履修に対するモチベーションも高めることにより、いずれ履修する『分野横断リフレクション』を牽引する存在となることも期待している。

3. SA の役割と効果

3.1 授業での SA 業務と締めくくり会

毎回の授業は、**「事前ワーク」⇒【ミニ・レクチャー→グループ学習→授業のまとめ】⇒「事後課題」**という流れで進み、【　】内が授業中に行うことである。

この中での SA の動きは次のようになる。

「授業資料の確認」⇒【授業直前の打ち合わせ→授業グループ学習でのファシリテーション→授業直後のふりかえり】⇒「ふりかえりレポートの提出」

全８回の授業終了後には、別に時間をとって、締めくくり会を実施し、さらに「締めくくりレポート」の提出を求めた。事前プログラム、授業でのファシ

リテーション、締めくくりレポートのすべてにおいて所定のレベルを満たした場合に、教育・学生支援機構長名でファシリテーター認定証を発行した。

3.2 授業ディスカッションへの SA の効果

2021 年度 2 学期終了後に『分野横断デザイン』の授業アンケートを実施した（受講者 17 人中 11 人が回答：64.7%）。SA がどのような役割を果たしたのかを 5 件法で尋ねた結果が図 1 である。

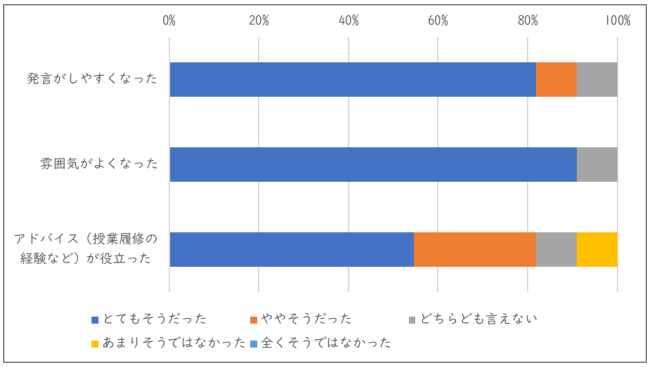

図 1　SA の効果（受講者のアンケート結果）

80～90％の受講者が、SA の存在によって、とても話しやすくなり、とても雰囲気がよくなったと感じていたことがわかった。アドバイスについては、「とても」と答えた割合が 50%強となった。これは、SA にアドバイスを行うように指示しておらず、受講生から求めに応じて随時、行った結果と考えられる。

以下は自由記述の一部である。

- zoom で顔を合わせて話し合いをしたことがあまりなく不安だったので、SA さんが指示してくれてとても発言しやすかった。
- 質問がなかなか出てこなかった時、SA の人がした質問をきっかけに話が広がり、自分も質問できたこと。
- 先生とはまた違った雰囲気で話しやすかったです。
- 話し合いをリードしてくれたり、アドバイスをくれたりして、話しやすくなり、自信にもつながった。
- 今まで自分では考えてこなかったことを提案していただいたところ。授業で扱う議題は難しいものであったが、他の人たちが発言しやすいように促してくれていたところ。

3.3 SA 自身の変化

図 2 は SA 自身の学修活動への取り組みの変化についてのアンケート結果である。SA は、授業でファシリテーターを務めることにより、自身が参加するグループ活動だけでなく自身のマイナー履修、さらにはマイナー以外の履修についても、より積極的に取り組むようになったことがうかがえた。

3.4 授業改善についての SA の提案

締めくくり会では、グループ学習の目標がどれだけ達成されたか、その達成がどのような要因で起こったのかを、受講者の変化や受講者・SA・教員の発言や態度を具体的にふりかえりながら探った。さらに、締めくくりレポートにおいて、授業の改善を提案してもらった。これは自律的な成長を促す取り組みの一つと言えるものである[(2)]。

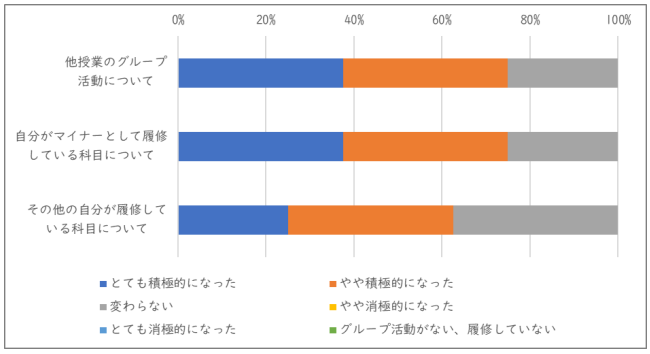

図 2　他の学修活動への取り組みの変化（SA アンケート結果）

以下は、提案された授業の改善案の一部である。グループ学習に直接関わる方法だけでなく、授業そのものをよくする提案もなされた。

- グループ学習の前に雑談時間を設ける
- グループ学習の前にグループ学習が評価の対象であることを伝える
- グループ学習が十分できるよう授業の最後に行う
- ある程度似ている興味のある学生同士を同じグループにする（マイナー学修への展望や具体的なキーワードについての意見交換ができるため）
- 受講生や SA や教員が互いにおすすめの科目についての情報交換をする場をもっと多く設ける
- 興味・関心を考える回では「興味に直接つながる学問」のほかに「興味の対象に影響を与える学問」という観点から考えるように呼び掛ける

4.　考察とまとめ

受講生のアンケート結果から、受講生が発言することにより自信をつけ、新しい見方に触れたことがうかがえ、SA の存在が、グループ学習での話しやすさやよい雰囲気づくりに貢献したことが示唆された。SA 自身の成長も、自分自身のマイナー履修により積極的になり、他の授業のグループ活動や他の授業の受講により積極的になったことからうかがえた。さらに、授業そのものに対する具体的な提案から、言われたことを行うだけでなく、より自律的に関わろうとする姿勢がうかがえた。SA 活用のサイクルを続け、後続科目への効果も確かめたい。

参考文献

(1) 竹岡篤永，神田麻衣子：授業ディスカッションを活性化するためのファシリテーター養成プログラム，日本教育工学会 2022 年春季全国大会（第 40 回大会）講演論文集，pp.367-368（2022）
(2) 岩﨑千晶：ふりかえりを取り入れたラーニングアシスタント研修プログラムのデザイン，関西大学高等教育研究 第 8 号，pp.35-45（2017）